

平成29年度 「未就学児の体力向上支援事業」

～専門指導者派遣事業;実施した18園(所)の報告書まとめ～



島根県教育庁保健体育課

未就学児の体力向上支援事業の一環として、今年度、「専門指導者派遣事業」を行った松江市内18の幼稚園、保育所の実施報告書をまとめました。本事業、そして、日常行っている運動遊びの実践を振り返ることにより、

- ① 多様な動きが経験できるように様々な遊びをとり入れる
- ② 楽しく体を動かす時間を確保する
- ③ 発達の特性に合った遊びを提供する

という「幼児期運動指針」の3つのポイントを念頭においた取組が、各幼稚園・保育所でより一層充実することを期待しています。

◆ 対象児 年長児 ※園の規模によっては、年中児・小学校低学年等も参加

◆ 実施園・幼児数

園(所)名	年長児	年中児等	園(所)名	年長児	年中児等
古志原幼稚園	24名		御津保育所	4名	12名
川津幼稚園	30名		法吉保育所	33名	
朝酌幼稚園	9名	7名	袖師保育所	21名	
城北幼稚園	36名		しらとり保育所	19名	
大谷幼稚園・小学校	3名	5名	八雲保育園	19名	
津田幼稚園	23名		やつか保育園	20名	
しんじ幼児園	46名		城東保育所	24名	
出雲郷幼稚園・保育園	21名		のぎこども園	20名	
嵩見保育所	24名		松江ナザレン保育園	12名	10名

◆ 指導者 特定非営利活動法人ジョイナススポーツクラブ(出雲市) ※各園2回指導

<活動目的>

主にスポーツ教室・講師派遣を主軸とし、幼児から高齢者・障がい者までを対象としたスポーツの啓発・普及活動を行い、精神の高揚と健康の増進ならびに体力の向上を目指すとともに、スポーツ指導者の育成事業やスポーツ競技力を促進することにより、地域社会全体の発展に寄与する。

<実績>

- ・出雲市内幼稚園、保育所への指導者派遣及び研修講師
- ・鳥取県「子どもの体力向上プロジェクト」への指導者派遣 など

◆ 主な指導内容

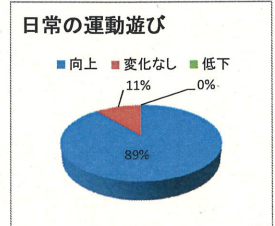
共通	各園(所)が行う導入の運動遊びに対する指導・助言
1回目	・歩く、走る、止まるなどの動きの組合せ及び指導方法 ・ボンボードを使った様々な体の動きの経験及び習得方法 ・各園(所)にある器具や用具を活用した環境構成の工夫
2回目	・鉄棒、マット、跳び箱などの技の習得に向けての指導方法、場づくり ・遊びを通してボールを扱う技能を高めていく環境づくりと指導 ・縄を使った運動遊びと指導

【考察】

1 専門指導者の派遣前と派遣後の比較

(1) 幼児の日常の運動遊びについて

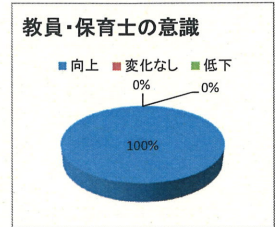
○ 教員・保育士の意識調査では、89%の園(所)で幼児の日常の運動遊びが活発になったと回答した。



○ 活発になったと要因としては、専門指導者が提供した様々な運動遊びプログラムの内容や場の工夫、担任の日常的な働きかけ等が刺激となり、幼児の運動遊びに対する興味・関心や挑戦意欲を高めることにつながったものと考えられる。

(2) 教員・保育士の意識について

○ 教員・保育士の意識調査では、100%(全て)の園(所)で幼児期の運動遊びに対する教員・保育士の意識、実践意欲が高まったと回答した。

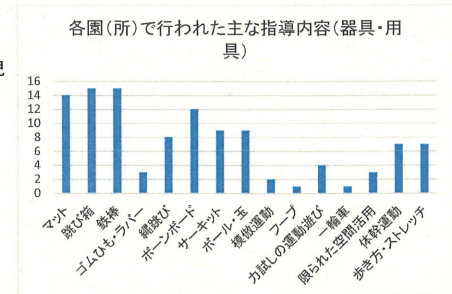


○ この事業は、教員・保育士を1ヶ所に集めて行う教室型の研修ではなく、専門指導者が各園に向かい行う訪問指導型の研修である。教員・保育士にとって、目の前の子どもの様子を観察しながら専門的・段階的な指導方法を見聞したり実際に指導(補助)をしたりしたことが、意識の向上、実践意欲の高まりにつながったものと考えられる。

2 指導内容について

○ ジョイナススポーツクラブが掲げるコンセプト「幼児期の体幹への良質刺激の提供」「全身をバランスよく動かすコーディネーション能力を向上させる運動遊びの提供」「ロコモティブシンドロームの予防」をもとに、多様な運動遊びプログラムが提供された。

○ 一律ではなく、各園の遊戯室の広さや所有している教具・用具等に応じた運動遊びが提供され、日常の運動遊びにつなげたりアレンジしたりしやすいように構成されたプログラムが展開されていた。



3 各園の成果・課題より

「子どもたちがはりきって体を動かして遊ぶようになった。」(楽しく体を動かすこと)

「自分ができるようになったことを喜び、自信につながっている。」(自己肯定感)

「失敗しても何度も挑戦する姿が見られるようになった。」(挑戦意欲)

「このように、子どもたちの日常の運動遊びに好ましい変化が表れたことが大きな成果となっている。また、継続して行うことで、子どもの集中力が高まった、落ち着いて生活できるようになった、姿勢がよくなった、という声もあった。」

さらに、今年度から、導入の運動遊びは各園(所)が行うというやり方に変えたことによって、昨年度以上に主体的に取り組もうとする園(所)が多くなった。担任を含め、複数の職員で子どもたちの活動の様子やジョイナススポーツクラブの指導法を観察したり写真・ビデオに撮ったりする園(所)が増え、子どもたちに体を動かして遊ぶことの楽しさをしっかり体感させたいという職員一人一人の実践意欲の高まり、園(所)としての一体感も感じることができた。

これから全職員で運動遊びの意義、必要性を共通理解し、「園として継続して取り組まなければならないことは何か」「今ある環境をどのように工夫・改善していったらよいか」など共有しながら、実践を進める園(所)が増えることを願っている。そして、新幼稚園教育要領及び保育所保育指針のもとで、運動遊びを通じた保育所・幼稚園・小学校の円滑な接続に向けた実践が進められることを期待している。

各園(所)の成果と課題

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
1	<p>○跳び箱に恐怖心が強くて取り組もうとしなかった子どもが「先生見てて！」と生き生きと挑戦する姿がある。跳び箱を直に床に置くよりも、ステージに置くことで恐怖心なく挑戦している。</p>	<p>▲跳び箱は1回目、2回目と指導してもらい全員が意欲的にしているが、鉄棒は繰り返し挑戦する子ども、しない子どもと差がある。</p>	<p>○楽しみながら段階を追って進めていく方法を学ぶことができた。指導方法、支え方等を教えていただいたので、今後他の運動でも同様にしていきたい。</p>	<p>▲鉄棒について、意欲的に取り組む子どもと、しない子どもの差が激しいので、その原因や支え方を考えて皆で楽しく挑戦できるようにしていきたい。</p>
2	<p>○鉄棒、マット、跳び箱のやり方やポイントを教えていただいたことで、子ども自身もポイントを意識しながら積極的に挑戦するようになった。</p> <p>○跳び箱に関しては、学級の8割しかい子どもが、跳び箱を跳べるようになった。</p> <p>○ポーンボードに喜んで取り組んでおり、遊びを楽しむ感覚で体力向上につながっているように感じる。</p>	<p>▲取り組もうする意欲に個人差があり、苦手意識のある子どもは取り組みにくい。</p>	<p>○実際に子どもに指導しておられる姿を見ることで、補助の仕方や声のかけ方、また、サーキットの組み方や物の置き方等、具体的な指導方法を勉強することができた。苦手意識を持っている子どもに対して、ただ「やってみよう」「がんばれ」など心情面に響く声かけだけではなく、できるようになるための手立てを考えやすくなった。</p> <p>○教師自身も運動遊びの指導に苦手意識が低くなったため、保育に取り入れやすくなった。</p>	<p>▲教師が意図的に運動遊びを保育に取り入れていく必要性を感じた。</p>
3	<p>○2年目となるポーンボード遊びは、実施後遊びのバリエーションが増え、ポーンボードに荷物を載せたり、積み木とポーンボードを使い乗り物にして遊んだりするなど、子どもたち自身が工夫して体を動かして遊ぶようになった。</p> <p>○実施後、玉投げ遊び用に「的(カーテン)」を作ったところ、それにめがけて自然と投げるようになり、運動能力測定(ボール投げ)の結果にもつながった。</p>	<p>▲股関節が硬い子どもが多く、成長期の今の時期こそ、伸ばして柔らかくする運動を取り入れる必要がある。朝の会や体操の時間など、生活の中で毎日取り組んでいきたい。</p> <p>▲今年度は、「反り返る」動きを新たに経験した。今後も遊びの中で継続して行いたい。</p>	<p>○実施後、運動遊びの内容を生活の中での遊びや運動会の競技に取り入れた。運動会が普段の遊びとつながり、より動きが活発になるとともに、子どもの意欲にもつながったように感じた。</p> <p>○子どもの体の使い方について、教員が一人一人をしっかりと見るようになった。個人差が大きい部分については、個別に指導方法を教えていただき、とても参考になった。</p>	<p>▲2年目の指導であったが、一年目と同じ姿(股関節の動き・低い姿勢の動き)が課題として出てきた。運動経験の不足を反省するとともに、時々行う運動遊びとして終わってしまわないように、教師自身の計画性と工夫が必要であると感じた。</p>
4	<p>○室内でも指導を受けたことを遊びとして繰り返し取り入れたり、園庭の固定遊具で行ったりした。</p> <p>○子どもの頑張っている姿を保護者にも見てほしいと考え、参観日でも活動の中に取り入れた。その後も繰り返し挑戦しようとする子どもの姿が見られ、自信や達成感へつながった。</p> <p>○鉄棒のコツ(体の動かし方)、跳び箱の安全な跳び方(手をつく位置、タイミング)など子どもの技術も向上したと感じる。</p>		<p>○教具の新しい使い方や指導への取り入れ方を詳しく知ることができたことが多く勉強になった。</p> <p>○体づくりや少人数の中での指導の方法、子どもの意欲の引き出し方など細やかなアドバイスをもらい、そのことが継続した指導へつながったと思う。</p>	

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
5	<p>○遊びを交えながら身体をしっかりと動かす運動遊びができ、みんな喜んで取り組んでいた。</p> <p>○日々の保育の中で指導していただいた動きを取り入れると、子ども達も「あの時(体力向上支援事業で)した」と言って張り切って取り組む姿が見られている。</p>	<p>▲日々、車で登降園をすることが多く、「歩く」経験が少ない。足に力が入りにくく、何もない所でつまずいたり転んだりする。また、指導を受けた時に子どもの動きを見て腕で自分の体を支える力が不足していると感じた。</p>	<p>○マットや鉄棒・跳び箱などの運動遊びの指導については、危険を伴うので、どのように指導したらよいか分からなかった。しかし、遊びの中で自然とそれらにつながる動きを経験する(させる)ことで出来るようになっていくことが分かり、とても参考になった。</p> <p>○年少・年中児にはまだ無理だろうと思っていたことも、指導の仕方を変えることで子どもは取り組む姿が見られ、指導の幅が広がった。</p> <p>○日々の保育の中で、指導していただいたことを少しずつ実践している。</p>	<p>▲幼稚園には、しっかりと身体を動かす場所・運動具(マット・跳び箱・鉄棒など)がないため、限られたスペースでできる運動を継続して行うようにしている。今後も、機会を見つけて小学校の広く充実した設備を借りながら思い切り体を動かしたいと思う。また、特に気になる手足の力をつけるような動きに重点を置いて指導に当たりたい。</p>
6	<p>○跳び箱や、縄跳びをすることにに対して意欲が高まった。</p> <p>○失敗しても何回も挑戦する姿がみられる。</p> <p>○自分ができるようになったことを喜び、自信につながっていると感じる。</p> <p>○跳び箱や鉄棒については、跳ぶ時のリズムやコツを実際に体験し、感じる事が出来た。</p>	<p>▲意欲的に取り組んでいたが、途中で集中が切れてしまった子どももいた。</p>	<p>○2回の事業を通して、鉄棒や跳び箱の指導方法について、具体的に知ることができた。</p> <p>○1回目に指導を受けてから、教えていただいた運動的な活動にあまり取り組むことが出来なかった。子どもの気持ちが高まっている時をチャンスととらえ、すぐに実施することができたよかったと感じた。</p> <p>○2回目の時には、1回目のことを反省し、すぐに保育に取り入れるように心掛けた。実際に保育に取り入れてみると、子どもたちがとても張り切って挑戦する姿がみられたので、この機会を大切に、継続的にしっかりと支えていくようにしていきたい。</p> <p>○この事業を受けて、運動遊びを指導することに対する、教師自身の意欲がさらに高まった。</p> <p>○子どもたちが自ら取り組める環境の工夫をした。</p>	
7	<p>○ポーンボードを使っての体づくりがとても参考になった。バランスのととり方も毎日遊ぶ中で身につけていった。</p> <p>○鉄棒を遊戯室においてキック板をおいたことで、自ら逆上がりの練習をするようになった。</p>		<p>○毎日取り組めるように環境設定すると、子どもたちが自分たちで技を考えたり、子どもたち同士楽しんで遊んだりする姿がよく見られた。子どもたちが主体的に取り組めるようにするには、環境構成と教師自身の子どもの力を信じる事が大切だと思った。</p>	<p>▲安全に遊ぶことができるように、ポーン日オードの使い方についてもっと早く話をするとよかった。</p>
8	<p>○体を動かすことに対して消極的な子どももいたが、派遣後も自分たちで作ったサーキット遊びやポーンボードなどをする事で自分からやりたい気持ちを表すことが多くなった。</p> <p>○派遣後、運動遊びを保育参加日の時に保護者へ紹介し、一緒に体を動かしたりしてもらった。</p> <p>○子ども達の声かけるときわかりやすいように「タタタとけるよ」と擬音を効果的に使うことで子ども達もやってみようとする姿が見られた。</p>		<p>○子どもが長い時間でも体を動かすことが楽しめる工夫の仕方を学ぶことができた。また、安全面への配慮の仕方も実際に自分がその場に立ってみることで、より理解することができた。また、やりたい器具を子ども達が出し、子ども達で片付けるという子ども主体性の大切さも強く感じる事ができた。ポーンボードなどその後もどんどん活用していった。</p>	<p>▲子ども達が継続して運動遊びを行うことができる時間と場の補償と保育計画にうまく取り入れていく事が今後の課題である。</p>

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
9	○前転や跳び箱は、動きを楽しみながら怖がらずに楽しめるようになった。	▲体力がなく、途中で疲れてしまう子、動くことをやめてしまい、座り込む子が数名いる。今後、サーキットを継続的に取り入れ、強化していきたい。 ▲腕の力、足で踏ん張る力が弱い子が多いので、いろいろな場面で意識しながら取り入れていきたい。	○サーキットの空間の使い方がとても勉強になった。就学に向けて、体幹を鍛える遊びを多く取り入れ、楽しめるようにしたい。(毎日1回必ずポンボードをすることを日課にした。)	▲跳び箱、鉄棒など様々な運動は各年齢の積み重ねが大切ということに改めて気づいた。今後は、各年齢の発達や動きのポイントをしっかり把握しなければならない。
10	○いろいろな運動遊びを教えられ、どれも意欲的に取り組む姿が見られた。1回目に指導を受けた、バランスの悪いところを歩く遊びを続けて活動に取り入れたところ、徐々に自分でバランスを取り、スムーズに歩けるようになった。普段、話を聞くときの姿勢保持が、以前よりもしっかりとできるようになった。	▲今後は、少し難しい運動遊びでも「やってみよう」「ためてみよう」と考えたり工夫したりしながら運動遊びに取り組めるようにしていきたい。	○保育所にある用具を使った運動遊びを教えられたため、特別に用意する用具もなく、普段の活動に気軽に取り入れることができた。ボール遊びや縄遊びは、継続して行うことが大切だと分かった。発達段階にあった遊びを続けてできるようにしたい。	▲今回教えてもらった遊びを活動に取り入れ、楽しみながら様々な運動遊びを経験できるようにしていきたい。
11	○2人ペアで友だちと運動する場合、始めは友だちに頼りがちで自分の体を支えにくく友だちに任せてしまう姿があったが、何度も繰り返すうちに自分の体は自分で支えたり、協力したりし相手のことを考える姿が見られるようになった。		○友だちとペアまたは複数で取り組む運動を取り入れるようにした。 ○スピード感がある動きだけでなく、止まるゆっくり等の動きも遊びの中で取り入れた。 ○子ども達への言葉かけ、補助の仕方について教えていただき参考になった。	
12	○いろいろな運動遊びの体験ができ、楽しさを感じていた。 ○失敗を恐れる消極的な子どもが、できるようになりたいと意欲的に取り組んでいた。 ○やっていくうちに上達していく嬉しさや達成感を感じていた。 ○足を上げてバランスをとって競争するなど、教えてもらったことを遊びの中で取り入れて楽しむ姿がある。	▲今までの経験の差があるので、この先もいろいろな運動遊びを続けて意欲的に取り組んでいけるかどうか。	○いろいろな運動遊びの習得と経験の大切さを感じた。 ○消極的な子どもが意欲的に取り組んだり、個々の運動能力を更に把握したり、普段とは違った子どもの姿に気づいた。	▲教えていただいたことを安全面に気をつけながら、楽しく計画的に取り入れ継続していく。その上で、それぞれの運動能力を伸ばしていけるようにしていく。 ▲今回研修を受けることのできなかつた職員に、取り組み方・方法を伝えていき、年齢に応じた運動遊びや体幹を鍛える運動を取り入れていく。
13	○体を動かす楽しさを味わい、目標を持って自主的に体を動かすようになった。 ○継続して取り組み、できるようになるまでの過程を楽しめるようになった。友だちにコツを知らせたり励ましたりする姿も見られるようになった。 ○できるようになったことが自信となり、いろいろな運動遊びに挑戦するようになった。	▲ジョギングや縄跳びの前跳びで疲れを訴える子がいる。縄跳びで二拍子と一拍子が混ざるのは、足の筋力が弱いと指導を受けたので、いろいろな遊びを通して、体づくりをしていく必要がある。 ▲ボールを使った遊びは腕だけで投げる子もいるので、繰り返し取り組み、全身を使って投げるコツをつかめるようにしていきたい。	○以前より意識して取り組むようになった。 ○指導や補助の仕方が分かり、以前より指導しやすくなった。 ○狭い遊戯室でしっかりと体を動かせるように、コーン(ゴム付)で仕切って、ジョギング・スキップなどをするようにしている。室内でも十分な運動量を確保できるようになった。	▲鉄棒、跳び箱、縄跳びを中心とした活動が多くなったが、ボール遊びが少なくなってしまった。今後しっかり取り入れたい。 ▲環境を見直し、工夫・改善していく必要がある。所内にある用具を十分に活用できるようにしたい。

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
14	<p>○チーター歩きや跳び箱の指導法を教わり、派遣後は19名中17名が4段の跳び箱を跳べるようになり、1名は6段も跳べるようになった。</p> <p>○側転に挑戦する際に足が高く上がるようになった。</p>	<p>▲前転の経験が少ないので、今後は椅子を使ってやったりマットをつなげてやったりして慣れていく必要がある。</p>	<p>○様々な動きの仕方、器具を使った遊び方を知ることができた。</p> <p>○補助の仕方を丁寧に教えてもらい、身についた。</p> <p>○動きの発達段階に合わせた支援法を教えてもらい、跳び箱・側転・ボール投げ等を実践することができた。</p>	<p>▲教えてもらった動きを今後回数を重ねて子どもに経験させ、運動を楽しいと感じ、達成する喜びを味わえるようにしていきたい。</p>
15	<p>○継続して取り組むことで成果の上がる縄跳びや鉄棒に対しては、苦手意識を持っている子どもが多かったが、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。“やってみよう”“がんばったらできる”と思えるようになり、この意識の変化が意欲的な姿につながったと思われる。</p> <p>○1回目の指導の後に発表会があり、指導をもとに日々の活動に取り入れたため、跳び箱や鉄棒、縄跳びに挑戦する子どもが多かった。その後2回目の指導があったため、さらに次のめあてを持ち、取り組むことができた。</p> <p>○1時間半の活動を皆が積極的に楽しんで取り組む姿が印象的だった。昨年度は親子で指導してもらっているため、子ども達はよく覚えており、指導の日をとっても楽しみにしていた。</p>		<p>○遊戯室という空間を、カラーコーンとゴムを使って区切ることで広がりを持たせることができ、活動の幅も広がる。活動を進めていくリズムもいつもとは異なり、いろいろな意味で違う角度から運動遊びの指導方法を学ぶことができた。</p> <p>○縄跳びの導入方法については、縄を回す、縄を使って遊ぶ、2人跳び等は取り入れていたが、結んだままや長さを変えて様々な運動ができること、ラバーリングの代用もできることが分かり、縄跳びに親しむための遊びを知ることができた。長縄を“どこでもドア”に見立てる等、保育士の創意工夫で子ども達が興味を持てることも改めて感じた。</p>	
16	<p>○以前はつまずき、転倒などの軽微事故が多かったが、指導を受けたようにいろいろな活動を毎日取り組んだことで事故が減った。中でも、ポンボードを使った遊びを毎日取り組んだ。子どもたちは楽しんで遊びながら自分の体を支えることや、バランスをとること、背面を意識する、操作しながら移動するなど様々な力をつけることができた。そのことが10月の運動会での組体操につながり、12名ずつの2列が自分の体を支えながら友達の体も支えるポーズを成功させることができた。</p> <p>○2回目の指導以降は跳び箱、鉄棒を熱心に取り組み、半数の子どもが跳び箱の横5段を跳べるようになった。</p>		<p>○就学前の子どもたちが学習に向かう体や力をつけておくことの大切さを改めて感じた。</p> <p>○2回の指導を受けて、遊びのヒントをたくさん教わり、そこから子どもの身に付く力について学ぶことができた。</p>	<p>▲指導を受けた保育士自身の学びにとどめず、職員全員に伝え年齢に応じた取り組みができるようにしていきたい。</p>

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
17	<p>○平均台を使った動きで腰の上げ方がわかり、ソフト積木での跳び箱を跳べるようになった。</p> <p>○ボールに興味をもち、投げたり、キャッチしたりすることを楽しめるようになった。</p> <p>○補助用具(ソフト積木を使う)や、保育者の補助があり、鉄棒に意欲的に取り組むようになった。</p> <p>○ゴム跳びでステップのコツを掴み、縄跳びが上達した。</p> <p>○ポーンボードを使い、身体を支える力、バランス力が向上した。</p>	<p>▲“やりたい”という気持ちはあるが、動きに繋がらない児が多い。</p> <p>▲ポーンボードでは、まだ自分の身体を支えきれない児が多いが、園にはポーンボードがないので、引き続き手押し車や雑巾がけ等を取り入れ、体幹を鍛えながら腕の力やバランス力が身につくようにしたい。</p>	<p>○跳び箱や鉄棒の踏み台はソフト積木で代用できる等、園にある用具の有効な使い方を知ることができた。また、用具の様々な活用方法を教えていただき、限られたスペースで十分に身体を動かし、子どもたちが飽きることなく意欲的に遊び込める環境設定の方法を知ることができた。</p> <p>○安全な補助の仕方や、それぞれの動きにおける注意点について知ることができた。</p> <p>○運動あそびへの意識が変わり、少し自信がついた。</p>	<p>▲教えていただいた運動あそびを継続して取り入れる。</p> <p>▲それぞれの運動において個人差が大きいので、一人一人の発達段階(レベル)を把握し、個別に内容を見直したり、補助を工夫したりする。</p>
18	<p>○平均台と跳び箱を組み合わせて跳び箱練習をし、開脚とびが出来るようになった子が増えた。</p> <p>○出来るようになった事が自信になり、苦手意識の合った他の運動遊びにも挑戦する姿が見られるようになった。</p>	<p>▲「やってみよう」の意識で取り組む事や、日々の生活の中で、姿勢など意識して保つことなどが課題。</p>	<p>○跳び箱の指導方法を教わり、運動遊びに取り入れたことで子どもたちが意欲的に練習に取り組むようになった。跳び箱と平均台を組み合わせた環境設定など指導を受けなければ考えないであろうことを教わることが出来て良かった。</p> <p>○2回目の指導で、保育園にある身近な遊具を使った遊び方を教わり、取り入れている。</p>	<p>▲毎日の生活の中に体幹を鍛える動きがあることを子ども達に意識させたり、運動遊びに今回の指導を取り入れ継続したりし、子どもたちの体幹を育てていきたい。</p>

平成29年度 未就学児の体力向上支援事業
専門指導者派遣事業 実施要項

1 目的

- 専門指導者を派遣し、年長児に対して発達段階に適した好ましい運動習慣のきっかけづくや体力向上推進に向けた多様な動きを経験する運動プログラムを提供することで、運動への興味関心をもたせるとともに、小学校入学以降に体育の授業に苦手意識をもたないようにする。
- 幼稚園・保育所等で実践を行うことで、教員、保育士の研修の場とし、資質の向上を図る。

2 主催 島根県教育委員会

3 対象 松江市内幼稚園、保育所等

4 会場 各園（所）遊戯室

5 期間 平成29年5月～平成30年2月

6 派遣数 全36回 ※同一園（所）に少なくとも2回以上

7 内容

(1) 対象 幼稚園・保育所等の年長児及び教員・保育士
※園の規模によっては年中児と合同可

(2) 指導内容

- ① 専門指導者による各種運動遊びとその指導方法
- ② 各園（所）で行っている運動遊び（ウォーミングアップ等）への指導・助言

(3) 検証方法 教員・保育士対象に行う意識調査等から効果を見る。

8 講師 特定非営利活動法人ジョイナススポーツクラブ

<活動目的>

主にスポーツ教室・講師派遣を主軸とし、幼児から高齢者・障がい者までを対象とした、スポーツの啓発・普及活動を行い、精神の高揚と健康の増進ならびに体力の向上を目指すとともに、スポーツ指導者の育成事業やスポーツ競技力を促進することにより、地域社会全体の発展に寄与する。

<実績>

出雲市内幼稚園、保育所への指導者派遣及び研修会講師
鳥取県「子どもの体力向上プロジェクト」への指導者派遣

9 実施の流れ

4月28日 希望調査票提出締切（幼稚園・保育所等→子育て政策課）

5月上旬 選考・調整

※新規希望を優先する。また、希望数が派遣枠を超えた場合、地域性や幼稚園・保育所等のバランスを考慮して派遣先を決定する。

5月中旬 決定・通知の送付

（保健体育課→子育て政策課→幼稚園・保育所等）

5月末から 事業実施